

2011年4月11日

全建総連 支援対策本部ニュース(No.28)

全建総連 東日本大震災支援対策本部

ドイツ建設労組の議長から 震災見舞のあいさつ届く

全建総連の第50回大会であいさつされた、ドイツ建設労組のクラウス・ヴィーゼンヒューゲル議長から、このたびの震災に対するお見舞の連帯あいさつと、3万ユーロ(約360万円)の寄付が寄せられました。(4月8日)

全建総連では、ただちにお礼の返事を差し上げました。

拝啓

私達は大地震とこれに続く津波により引き起こされた恐ろしい出来事の画像を驚きながら見つづけていました。

日本国民の皆様とともに、この巨大な天災により亡くなられた方々に、謹んで心からの哀悼の意を表します。

この震災による破壊が一体どの程度のものであるのか、私達にはただそれなりに想像することができるだけです。私達は日夜を問わず、皆様のお気持ちを心から察しています。地震は多大な辛苦を生み出しました。各町村のインフラを完全に破壊しました。組合員の多くの方々も多大な被害に会われたのではないかと心配しています。

これら組合員の方々、その遺族の方々、そしてそのお子様のために、ほんの些細な額ではありますが3万ユーロの連帯金を寄付させていただきたいと思っております。

これにより皆様の苦しみがわずかでも和らぐことを心から望んでおります。

皆様に私達からの連帯のご挨拶をお伝えください。



懸念と同情の意を表しながら、皆様にご挨拶いたします。

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Klaus Vitzthum".

クラウス ヴィーゼンヒューゲル
ドイツ建設、農業、環境産業労働組合議長

岩手班からの報告

岩手県連は、4月9日に齋藤会長と全建総連から大江書記次長、徳本住宅対策部長、金田主任書記ら4人で、岩手県土木整備部建築住宅課に「地域材を活用した木造仮設住宅建設」について要請をしました。

徳本部長は国土交通省から全建総連、全国中小建築工事業団体連合会（全建連）、日本建築士会連合会に要請があったことを伝え、三者で震災復興協議会を甚大な被害があった岩手県、宮城県、福島県の3カ所に事務局を設置することを説明しました。また資材等が十分行き渡らないという状態が発生しないように一括調達することも伝えました。

県土木整備部建築住宅課の辻村俊彦主任主査は「資材等は確かに不足している。生産はほぼ正常だが入荷は偏っているようだ。組織立って資材等がきちんと調達できれば良いと思う。仮設住宅はプレハブと木造が同じような仕様で建設費も大差なければ、プレハブにはこだわっていない。岩手県は三陸リアス式海岸での被災が甚大で、20～30戸がせいぜいで大規模な土地は確保できない。年間5棟程度の建築の方でも3人集まれば15棟はできる。グループを組んでもらうことはありがたい。地元で技術・技能をもった職人さんは頑張ってもらいたい。地元の職人さんに頑張ってもらえば経済効果等も生まれる」と述べました。

岩手県連の齋藤会長からは「組合では岩手県の各地域で職人さんを組織している。職人さんを集めることは容易い。地元の職人さんが住宅復興を支援することは地元の経済効果に必ずつながる。ぜひとも協力したい」と訴えました。

辻村主任主査は「住宅は建てれば終わりではない。あとあと手をかけていかななくてはならない。そうなれば地元の職人さんに発注をしたい。これからの予定は、来週中には上司の了解をとって、住宅復興支援の公募をする予定だ。現在も飛び込みでボランティアに参加したいとの電話があるが、個人はお断りしているのが現状だ。建設組合さんのようにグループで組織だって協力をしてくれることは、こちらからもお願いしたいところだ」と協力要請がありました。

翌日10日には岩手県連の齋藤会長、釜石大工組合の藤井泰男副組合長とともに5人で釜石駅前シープラザにある釜石災害対策本部を訪れ、野田武則釜石市長と佐々木重雄副市長に面会し、災害復旧へのボランティア支援等を申し入れました。齋藤会長のボランティア支援の申し入れに対し、野田市長は「釜石大工組合とは藤井さんらを通して懇意にしている。災害復旧への上積み支援策を考えている。面倒な事務手続き



県土木整備部建築住宅課に申し入れ

も簡素化したい。住宅補修を含めてみなさんの仕事は増える。きちんとした体制づくりをしてほしい。14日から本格的な瓦礫撤去作業が始まる」と述べました。



釜石市の野田市長(中央)と



釜石のプレハブ仮設住宅現場を視察

大江書記次長からは「今までの災害の経験を生かして、こちらでできることを、窓口をつくってくれば、道具を持参してボランティア活動に参加したい」と申し入れました。徳本部長からの「学校・病院等の公共施設と高齢者・低所得者住宅の修繕・修理等のボランティアを優先したい。言ってくれば職人さんを集めて、今困っている人を助きたい」との申し出に対し、野田市長から佐々木副市長に今、公共施設で修理・修繕等の要求・要望があるリストを早急に釜石大工組合の藤井副組合長に渡すように、その場で指示がありました。

また釜石大工組合事務所の近くの新日鉄釜石ラグビー場のグラウンドには、仮設住宅建設が建てられ始めていました。働いている職人は、電気・設備関係は地元から、内装等は県外から入っていました。ある職人に聞くと「自分は大阪から17人で来た」と答えるだけで、賃金・単価等は一切答えてはくれませんでした。現場は内装が貧弱で間仕切りが6ツ割りよりも細いのが見てわかりました。

次に大船渡市役所を訪れ市長に面会しようとしたのですが、災害復旧等で多忙



プレハブ仮設住宅の内装



村上大船渡市議(左から2番目)に申し入れ

で会えず、村上健一市議会議員にボランティアの申し入れをしました。村上議員は申し入れに対し「復興支援の最前線に立つのが大工さんだ。道具を流された方が多い。何とかしてあげなくてはならない」と述べました。齋藤会長は「いま岩手の組合内でも被災が少なかった組合の組合員からも道具提供を呼びかけている。道具は東京の全建総

連にもお願いしている」と答えました。

「住田町で木造による 200 戸の仮設住宅を建設する予定」の記事が話題になり、最寄の「けせんプレカット事業共同組合」で聞いてみると、「近くに 10 戸程度建設中の現場がある」と聞き、立ち寄ってみました。現場では地元職人が 1 人で作業をしていました。規定で決められている建坪 9 坪で 2DK の木造による仮設住宅でしたが、賃金・単価等については答えてくれませんでした。プレハブ仮設と違い、木造の良さが際立って優れていることを実感しました。



木造の仮設住宅も建設が始まっていた(住田町)写真上

木造の良さが際立つ仮設住宅の内装(写真左)

宮城班からの報告～県連・国保合同の第 6 回災害対策本部会議を開催～

8 日に第 6 回災害対策本部会議が開催されました。会議には全建総連の勝野社保対部長も参加し論議に加わりました。冒頭山崎本部長（宮城県連会長）が「7 日の大きな余震で瓦が落ちるなどの新たな被害が発生している。引き続き頑張っていこう」と挨拶。

対策活動の進捗状況、今後の支援対策などについて話し合われました。

安否確認の進捗率が 89.3%まで進み、組合員 29 人、家族 64 人の死亡が確認されていることが報告されました。また 7 日の余震で新たに瓦が落ちる、かけたブルーシートがずれるという事例が多く出ていくことが分かってきました。



宮城県連・国保の第 6 回災害対策本部会議

全国各地から集まった支援物資に加え、大工道具を失った仲間を支援するため、県内でも丸のこなど、道具の調達を進めて、4月中に配布ができるよう急ぐことが確認されました。

また宮城県内で3万戸の仮設住宅建設に向けた動きが進む中、勝野社保対部長から仮設住宅の発注と宮城県連の参画の方法について説明がありました。

塩釜市建設職組合にブルーシートを搬入

9日に災害支援対策本部・八木副本部長（宮城県連副会長）が宮城県連・塩釜市建設職組合に7日の大きな余震で急遽必要となったブルーシートと土嚢袋を中心とした支援物資を搬入。塩釜市建設職組合は及川組合長が対応しました。

及川組合長は3月11日午後、現場で地震に遭遇。自宅に戻ろうと車を進めると、対向車線に猛スピードの車の列。対向車線を逆送する車が現れ、「津波が来ると思い、急いでハンドルを切り反対方向に逃げた」とのこと。しかしその方向にも津波が押し寄せ、建物に避難したそうです。

支援物資を受け取った及川組合長は、近隣の組合にも物資の搬入に行かれるとこのことで、「全国からの仲間の支え合いに本当に感謝している。町の再建に懸命に頑張るので、引き続き支援をしてほしい」と述べました。



八木副本部長(右)から塩釜の及川組合長に支援物資を渡す

仙台市建設職組合 被災者に見舞金と支援物資を配布

【大きな被害を受けた七郷班】

10日、宮城県連・仙台市建設職組合では、市内沿岸部で大きな被害を受けた3つの班の被災者に、見舞金と救援物資を配布しました。

七郷班の集まりには約30人が参加し、被害の大きかった荒浜地区に近い、七郷市民センターで行われました。当日は大規模な行方不明者の捜索活動が行われており、センターは捜索・救援活動を続ける自衛隊の中継基地にもなっています。七郷班では3人の組合員と2人の家族の方が亡くなり、多くの方が住宅を失いました。

仙台市建設職組合の八木組合長（宮城県連副



みんなで協力して支援物資を並べる

会長)は「今までに経験したことのない事態になったが、組合としても全力で再建を助けていきたい」とあいさつ。かんま進県会議員も被災された皆さんの激励に駆けつけました。

【見舞金と支援物資の配布】

その後、組合員や家族が亡くなられたり、家を失った皆さんに仙台市建設職組合から見舞金をお渡ししました。また全国の仲間から宮城県連に寄せられたり、組合で用意した救援物資を配布。中身は兵庫の仲間から寄せられた金づちや差し金といった大工道具。大きな余震により需要の高まったブルーシート。その他、石けんや消毒液、米、カセットコンロなどの日用品まで多岐にわたります。

組合員からは「道具もないが、仕事に行く手段がなく困っている」が多く寄せられ、かんま議員は「再建を進めるには、皆さんが、仕事ができる環境を早急に整えなければならぬ」と応えていました。



かんま県会議員に実態を訴える

【ご主人を亡くされた佐藤さん】

佐藤のぶ子さんも見舞金と支援物資を受け取った一人。のぶさんは「地震の時は、仕事が早く終わった主人(久夫さん)と娘で自宅にいた」とのことです。

経験したことのない揺れが収まった後、「津波が来るかも知れない」とのことです。みんなで避難の準備を始めました。

久夫さんが「先に行け」と叫び、のぶさんと娘さん、愛犬3匹で先に避難することに。のぶさんが車に乗り込む前に「主人に別の車の鍵を渡したのが、最後になってしまった」。のぶさんが避難を始めるとすぐ、周りの家を飲み込みながら、車に津波が迫って来ました。

3月15日に久夫さんの運転免許証を持った遺体が発見されたと連絡があり、翌日久夫さんのご遺体であることが確認できたそうです。のぶさんは「主人の分もがんばらなきゃ」と気丈に対応していただきました。



支援物資を受け取る組合員さん

宮城県建設職組合連合会・宮城県建設業国民健康保険組合合同
東北関東大震災・災害対策本部 本部長の 宮城県連 山崎会長からお礼のお手紙を
いただきました。

全国建設労働組合総連合
中央執行委員長 田村 豪勇 様

御礼

謹啓 早春の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度は、3月11日に発生しました「東日本大震災」に関しまして、先日4月1日に
貴職自ら当連合会までお越しいただき激励のお言葉とお見舞金を賜りましたことに、
当連合会役員一同厚く感謝し、47加盟組合ならびに7,000名の組合員、その家族10,000
名を代表して御礼申し上げます。

いまだに、被害の全容すら掴みきれないもどかしさを感じながらも、全建総連及び
全国の仲間の「頑張れ」という言葉を励みに、被災地の仲間の安否確認を行うとともに
加盟組合の復旧支援に全力を挙げて取り組んでおります。

今後とも貴職ならびに全建総連のご指導、全国の仲間のご支援を賜りますようお願い
申しあげ、略儀ではありますがこの書面をもって御礼のご挨拶とさせていただきます。

敬具

平成23年4月7日

宮城県建設職組合連合会・宮城県建設業国民健康保険組合合同
東北関東大震災・災害対策本部

本部長 山崎忠夫

厚生労働省 粉じん用マスク7万枚を追加配付

3月29日付の全建総連特発第51－76号でお知らせした通り、厚生労働省は全建総連の要望を受け、2万枚余りの防じんマスクを無償で配布いたしました。

その後、防じんマスクメーカーより7万枚の追加提供を受け、本日より被災地の労働局で配布することとなりました。

被災地の各組合におきましては、今後の解体改修工事、瓦礫処理等の際に発生する粉じんのばく露防止のために防じんマスクの提供を受けるとともに、組合員のマスクの確実な着用等について、指導を徹底していただくようあらためてお願いします。